

ギャラリーのような 平屋の家

Premium Style 00

有限会社DADA
ダダ
上伊那郡／橋場邸

アルプスに囲まれた大きな谷に建つ
一軒の平屋

電車？要塞？
その姿は

風景に合わせてデザインされた“空間芸術”

既成概念に捉われず

住まい手の理想を具現化する

クリエイティブな家づくりがここにある

西側の奥にそびえる中央アルプス。その手前を走るJR飯田線に対して垂直方向に佇む橋場邸は、一般的な住宅とは一線を画す長細い箱状の平屋だ。東西に細長い形状や線路沿いという土地の個性を踏まえ、デザイナーキチノブは電車、南側に並ぶ窓は、さながら電車の車窓のようだ。



LDKは一家が集う団らんの場。シックなトーンで統一された空間に、シャンデリアが華やきを添える。キッチンはアイランド型。ダイニングへの水はねや油はねを防ぐため8mm厚の耐熱防火ガラスで仕切られているが、視線が抜けるので開放感は損なわれない。目線の高さに合わせた窓越しに、アルプスの山並みや周囲の田園風景を一望できる

“住宅らしさ”という既成概念を取り払う

大切にしているのは
ファサードのインパクト

アッシユグレーのレッドシダーが外壁を覆う、片流れ屋根で長細い形状をした平屋。二見、住宅だと認識し難いほど個性的なこの家は、アトリエ系建築設計事務所「DADA」を主宰する橋場裕二さんの自邸だ。家のデザインモチーフは、すぐそばを走るJR飯田線の車両。長さ約40m、高さ6m弱の外壁には、電車の窓のごとく長方形や正方形の窓が整然と並んでいる。

橋場さんは飯島町出身。大学卒業後、広島で建築家・小川晋二氏のもと意匠設計を中心に3年間学び、30歳で地元へ戻った。帰郷後は父親の建築事務所に就職。代表を受け継ぎ、2023年11月に現在の「DADA」へ改名したという。

「師匠からは刺激を受け、多くを学びました。当社の設計で空間芸術、ファサードのインパクトを大事にしているのも、それがルーツとなっています」。橋場邸のデザイン背景には、電車が近くを走ることに加え、土地が東西に細長

いという事情もあった。そうした条件や風景との調和を織り込み創造されたのが、唯一無二のこの家なのである。

空間芸術の中に
暮らしやすさを取り込む

インパクト抜群の意匠を凝らしつつ、暮らしやすさにも寄り添うのが同社の考え方。例えば信州の厳しい寒さに対応できるよう高い気密性や断熱性を確保していること、光や風を活かし室内環境を快適に保つパッシブデザインを取り入れていることなどもその一例だ。

一方で、キッチンに厚さ8mmの耐熱防火ガラスを設けたり、特注の五右衛門風呂を浴室に設置したりするなど、日々の暮らしを豊かにすることばかりや遊び心もふんだん。LDKの窓からは雄大なアルプスや田園風景を眺められ、信州ならではの豊かな自然を取り入れる工夫も垣間見える。「室内に居ながらも四季を楽しめる、今の暮らしが気に入っています」。奥さまはにこやかに語りながら、特等席のダイニングから窓の向こうの景色に視線を向けた。

建物の南側には東西を貫く約40mの廊下があり、すべての部屋にアクセスできるプラン。壁や天井は光を柔らかく反射するAEP吹き付け塗装を施し、床には耐久性・耐水性に優れる塩ビタイルを使用。LDKや寝室だけでなくトイレやサニタリーも同じ仕様とし、内観全体の統一感を演出している



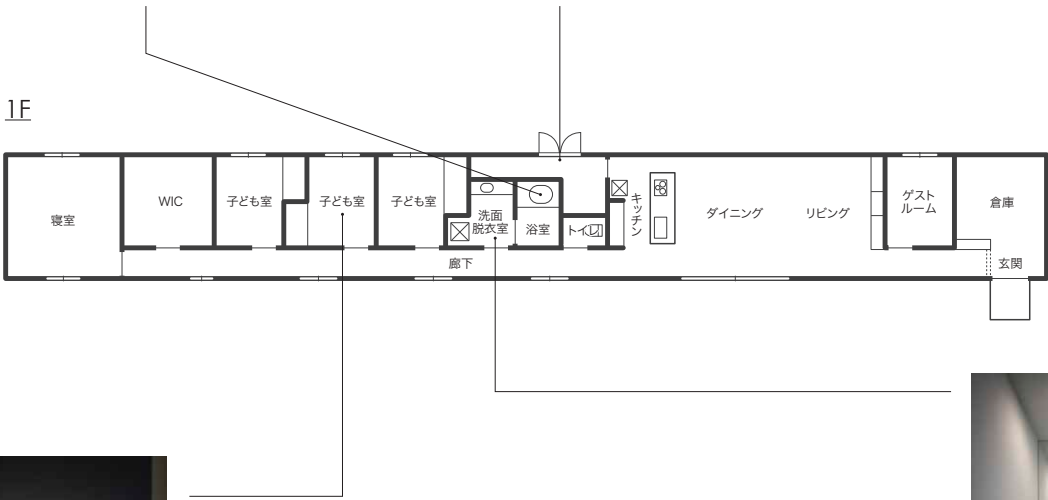
アートと性能が融合する生活空間



天然石のタイルに囲まれた浴室の主役は、広島県の専門メーカーが鍛造した鉄製の風呂釜。「この風呂釜いっぱい薪で沸かしたお湯を張り、ゆっくり身を浸して行く時間が幸せ。指先から足先に至るまで、全身が温まります」。天井には、全身を包んでくれるような洗心心地を味わえるオーバーヘッドシャワーを設置



建物の北側は、ガルバリウム鋼板の片流れ屋根になっている。家のほぼ中央に位置する浴室の裏側は、薪で沸かす五右衛門風呂の焚口と薪をストックする勝手口スペース。奥行きがあり、裏庭で伐った薪を運び入れるのにも便利

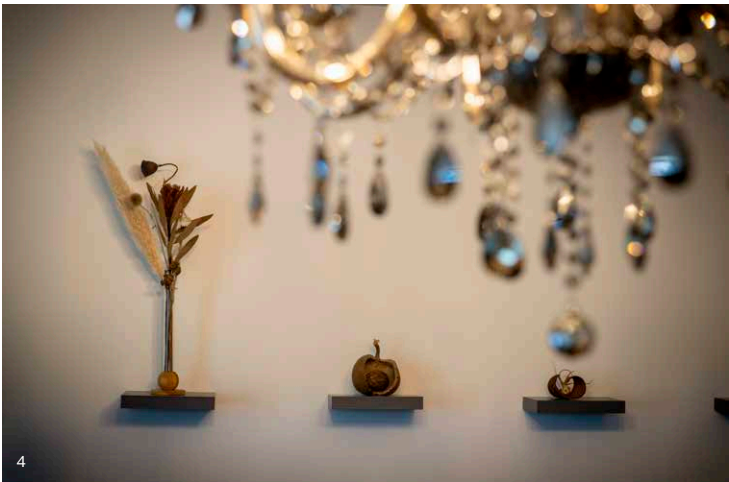


廊下沿いに3つある子ども部屋。各部屋とも●側の壁にプライベート感を保ちつつ光を採り込めるすりガラスの窓を設置し、壁、天井、床はほかのフロアと同様の仕様にすることで統一感を演出。クローゼットは設けず、子ども部屋と主寝室の間のウォークインクローゼットにすべて収納している

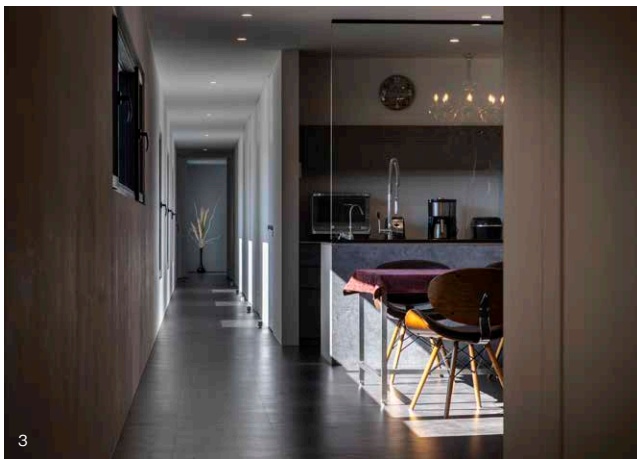


LDKから各個室に至る中間に、浴室や洗面脱衣、トイレなどを集約。シンプルな設えの洗面スペースは、壁一面に設けた鏡が空間を広く見せてくれる

館内全体が高気密・高断熱仕様、さらにパッシブデザインを取り入れているため、冬の暖房はリビングに設置しているペレットストーブとファンヒーター各1台のみ。手軽に火の温もり感じられるペレットストーブは煙突不要なタイプで、部屋全体をすっきりと見せられる



1.まるで要塞のような、迫力ある佇まいが目を引き南面ファサード。住宅における既存概念を打ち破るデザインは、まさに社名の由来でもある“ダイイズム”を体現していると言っても過言ではない。外壁には、加工しやすく腐りにくいレッドシダーを全面に使っている 2.廊下の窓や木製ドアには、山崎屋木工製作所の「ドレーキップスリム」を使用。これにより、南面外観の窓枠部分のミニマル化が可能に。内開きと内倒しの機能を兼ね備え、気密性や水密性、断熱性、防犯性にすぐれている 3.すりガラス越しに柔らかな光が入る主寝室。玄関から長い廊下を経て最奥に位置し、一日の仕事や家事を終えたご夫妻がホッと落ち着ける空間を目指した。天井の一角に物干し竿を設置し、室内干しを行うことも可能 4.LDKを彩るのは、光を反射するシャンデリアと、ウォールシェルフに並ぶドライフラワー。シャンデリアは、長女が選んで決めたもの。シックなトーンに統一された室内の随所に、こうした彩りがバランスよく取り込まれている



1.トイレ以外、建具には取っ手がないという橋場邸。開閉は、扉の片側に施した溝に手を掛けて。そのため閉めている状態では収納スペースも部屋も壁と一体に。徹底的に空間のノイズを排除することで、ギャラリーのような洗練された空間となる 2.黒いスチールの庇と壁に囲われたレッドシダーの玄関ドアは、断熱性の向上にも重要な役割を担う。多点ロックを採用し、玄関から入り込むわずかな冷気さえ侵入を阻止する構造に。多点ロックは、防犯性の向上にも貢献 3.廊下には空間を仕切る扉をあえて設けず、家全体がひとつの大きな空間として感じられるように。冬の冷え込みが厳しい信州の地でこのプランを可能にしているのは、同社の家が高気密・高断熱仕様であり、パッシブデザインをうまく取り入れているからにほかならない

Housing Data

家族構成／夫、妻、長男、次男、長女
施主／50歳・会社役員
竣工／2021年12月
構造・工法／●●●●●●●●
工期／8カ月

【外部仕上げ】
屋根／ガルバリウム鋼板 堅平葺き
外壁／米杉t=17

【内部仕上げ】
1F 床／塩ビタイル貼り
壁／石膏ボード、AEP吹き付け塗装
天井／石膏ボード、AEP吹き付け塗装

Builder's Eye

有限会社DADA
代表取締役
橋場裕二さん



私たちが大切にしているコンセプトは、「Enjoy」「Create」「Together」。
お施主さまの夢や想いを伺い、それを一緒に具現化していく。家づくりというとても創造的なプロセスを、お施主さまに心から楽しんでいただきたいと思っています。そのうえで、非日常感のある空間芸術を意識しつつ暮らしやすさも共存させる、既成概念に捉われない自由な家づくりを目指しています。

設計・施工／有限会社DADA
上伊那郡飯島町飯島2468・15 ☎0265・86・2936

“暮らしを楽しむ”

タノシム 3つのヒント



POINT 01

こだわりのキッチンで家族時間を堪能

「キッチンは松本のスペースウェアハウスさん製作のオーダーメイド。作業スペースは1m幅とたっぷり確保していること、ステンレスをパイプレーション仕上げにしていることがこだわります。子どもたちも料理が大好きで、よく一緒にキッチンに立って料理をしています」

POINT 02

火のある暮らしを楽しむ五右衛門風呂

「いつも長女が、五右衛門風呂の焚口に薪をくべてくれます。薪で沸かしたお湯は温泉のようにしっかり熱く、入るたびに『五右衛門風呂にして本当によかった』と実感しますね。焚口は湯沸かしだけでなく、子どもたちとマシュマロを焼く際に使うこともあります」



POINT 03

細長い地形を最大限に活かす

「東西に細長い、いわゆる“うなぎの寝床”状の土地ですが、建物も細長く設計したため、南と北側それぞれに十分な広さの庭を確保できました。我が家の子どもたちは3人ともサッカーが得意なので、よく庭でボールを蹴ったり走り回ったりして遊んでいますよ」

